

県立吾妻中央高等学校 学校評価一覧表② (令和2年度版)

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 生徒が主体的に学び、充実した学校生活ができるような教育活動を行っていますか。	① 一連の学習活動（課題設定・調査研究・まとめ・発表等）に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が75%以上である。	A	A	A	昨年度よりも良い評価と考えられる。各学科の特色を生かした、生徒の主体性を伸ばす指導が実践されていると考えている。今後もさらなる発展を目指したい。	学校としてよく取り組んでいる。主体的に取り組んでいる割合が高いレベルで維持されていることは評価に値する。今後の継続に期待している。	今年度の良い結果を踏まえ、今後も各学科の特色を生かしつつ、さらに発展できるよう努めたい。
		② 本校の教育活動にやりがいを感じている生徒の割合は、80%以上である。	C	C	C	新型コロナウイルス感染症対策による教育活動の制限がない状況での評価について判断していきたい。	コロナ禍で教育活動に制限があるなかではあるが、今年度の経験を生かして魅力ある教育活動を目指してほしい。	今後もコロナ禍は続くことも想定されるため、学校関係者評価にあるとおり、今年度の経験を踏まえながらも魅力ある教育活動にしていきたい。
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	③ 普通科では、基礎学力向上のため、各種資格検定等の受検を積極的に呼びかけ、漢検および英検それぞれ2級合格者10名、準2級合格者20名以上を目標とする。	C	C	C	コロナ禍の影響で計画通りに実施できなかったり、生徒への指導が不十分であったりで目的到達には及ばなかった。来年度は緊急時も想定して、より念入りな指導計画を行い、目的に近づけたい。	上級学校進学の際に否否に加味されたり、社会に出てからも有意になる資格になることがあるので、資格を得ることの重要性や必要性を根気よく説明し、より高い目標を持たせ、資格獲得に挑むような指導が求められる。普通科では取得できるものが限定されるので1つでも多く取得できるよう指導をお願いしたい。	コロナ禍が収まることを信じ、受検機会が確実に得られた際には、全員受検を含め、一つでも高い級獲得が出来るよう、またより多くの生徒が合格証書を受領できるよう、高い意識付けや職員による事前指導の徹底をはかり、具体的数値項目の達成を目指したい。
		④ 生物生産科では、年間1つ以上の資格の取得を目指し、卒業までに3つ以上の資格を取得することを目指す。	C	B	B	今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止にともない、資格取得の中には中止または延期となった資格があった。また、学校の開始が6月からだったため、例年とおりの指導ができなかった。しかし、前向きに捉えている生徒も多いため、今後も、自身のキャリアアップを考えさせ、農業学習や進路に役立つ資格の取得ができるようにしていきたい。	今年度は新型コロナウイルス感染症予防策により検定等に大きな制約があった中で、高い資格取得率は学校における指導力と捉え評価できる。専門的な資格は重要と考えられるので、その必要性等を十分に理解させ、高い目標を持って受験に臨めるように、さらなる指導をお願いしたい。	次年度も、生物生産科の教育活動の一環として、資格取得を位置づけて実施していきたい。また、これまでの資格取得にとどまらず、さらなる精選をし、生徒の興味関心や時代のニーズに合った資格取得も検討し始めていく必要があるだろう。
		⑤1年生は年度内に資格を2つ以上取得する。2年生は年度内に資格を2つ以上取得し、学年で測量士補と2級土木施工管理技術検定の合格率をそれぞれ50%とする。3年生は測量士の合格者を1名以上とし、測量士補と2級土木施工管理技術検定の両方を保有している者の割合を50%以上とする。	C	B	C	今年度は資格試験に向けての対策指導が計画的にできなかった。来年度は体制を立て直し、受験者の増加及び合格率のアップと難関資格の合格者輩出を図りたい。また、時間外の補習に頼った資格指導を見直す良い機会となった。授業の一層の充実を学科職員と計画したい。	測量士、測量士補の高い資格取得率は吾妻中央高校の特色であるといえる。即戦力になる資格であるため今後も期待している。そのために、資格の重要性を認識させ目標を明確にし、生徒がモチベーションを保てるような指導をお願いしたい。	資格取得の柱に位置づけている「測量国家試験」と「2級土木施工管理技術検定」については、合格率の増加を目標としたい。また、取得した資格を生かして土木建設業界への進路選択者を増やすように学科全体で取り組みたい。
		⑥ 福祉科では、介護福祉士国家試験の合格率90%以上を目標とする。	B	B	B	今年度は毎日課題をClassiで配信することにより、時間と場所を選ばず国家試験対策を行うことができるようになった。今後も生徒にとって勉強しやすい環境づくりができるように努力していきたい。	資格取得は大きなメリットとなるので福祉科は合格率100%を目標にして頂きたい。国家資格取得は福祉科入学の最大の目玉であると考える。合格率向上を目指し更なる指導をお願いしたい。	早い段階から国家試験に対する意識付けを行うことができるように、毎日課題や放課後補習等を効果的に実施していきたい。また、クラス全体で国家試験に臨むという雰囲気づくりに取り組んでいきたい。
3 地域の小・中学校や企業・団体と連携していますか。	⑦ 3学科の特長を活かした交流活動や実習、地域等との連携については、実施可能であれば感染症対策に留意して実施する。	C	C	C	感染症拡大下にあり、一部を除くほとんどの交流活動が取り止めとなった。来年度には例年通りの活動が出来ることを祈るばかりである。	地域との交流活動は、既に実践されて地域の多くの人に認知され、評価されている。今後も、感染予防対策を取りつつ、さらに地域に根ざした活動を期待したい。	地域内の感染状況や生徒、職員の感染対策に留意しながら、出来る内容のものから連携を再開したい。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑧ 各学科における生徒の実態を踏まえて、到達度を見通すことができる学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が65%以上である。	B	B	B	今後は、継続して資格取得を動機づけながら取り組ませる工夫するとともに、将来のキャリアアップについて考えさせながら展開していきたい。また、資格取得だけではなく、農業クラブなどの教科・科目に関わる各大会への参加も生徒への働きかけしていきたい。	個々の生徒の実態に即した指導を行っているため十分評価はできるが、引き続き学習に対する達成感、満足感を持って取り組むことができるよう指導をお願いしたい。	学年やクラス内での個人差、各学科の生徒の状況を見極め、その要望やニーズを満たす学習指導を行っていく。引き続き本校の学習活動に達成感・満足感を抱く生徒が70%以上になるように努める。
	5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑨ 単位未修得者の割合は、全体の3%以下である。	B	B	B	長期休業を利用し、補講や追試を行うことで、単位修得に努めた。今後も継続的に指導していきたい。	長期休業中の追試や補習指導で、成果が出ている。今後も単位未習得者を無くすよう指導をお願いしたい。	今後も成績不振者に対するケアをこまめに行い、単位未修得者をなくして、生徒全員を進級・卒業につなげていけるような指導をしていきたい。
	Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩ いじめ・問題行動を減らし、未然防止に努める。また、発生したときには、迅速な対応を行う。いじめに関しては、解消率高める。	B	B	B	学年主任・担任の先生方の協力によりいじめ・問題行動を減少することができた。しかし、早期発見等で事前に対応ができていた部分も多くあるので、今後は問題行動の発生自体の数を減らせるようにしていきたい。	SNSを介することにより発見が難しく根深いところもあるが、関係機関等と連携をとりながら対応にあたっている様子が見られる。今後も情報を密に早期発見・対応をお願いしたい。
7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。		⑪ 生徒会や風紀委員の生徒を中心に活動を行うことで、じめの未然防止に関して全校生徒の意識を高め、いじめのない学校づくりを目指す。また、講習会を行い意識を高める。	C	C	C	コロナ禍のため思うような活動ができなく、生徒が中心となり活動する場面をつくることができなかった。講演会等は、警察の方の協力により、行うことができたがそれ以外の活動は、ほとんど行うことができなかった。一斉放送とクラッシーを使い情報発信をおこなった。	現在のいじめは氷山の一角に過ぎないと思うので、いじめを許さない環境づくりやクラス運営を心掛けて欲しい。また、世の中がICT化のため有意義な活用方法ができるように進めて行って欲しい。	生徒会を中心にSNSの使用方法について改めて指導を行い、アウトメディアを取り入れながらもSNSの活用方法について更に理解を深めていけるように取り組みを生徒発信でしていきだ。
8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。		⑫ スマホやPCの適切な活用方法を意識している生徒が80%以上である。定期健診の再受診の未受診率を30%未満にする。	C	C	C	コロナ禍の中でのスマホの使い方の指導は難しいものがあった。家庭学習下での生徒との情報を共有するために活用していることを考えると一概に使用時間の長さを指摘できない場面もあった。再受診に関しても勧告しているが、指導は思うように出来なかった。	コロナ禍ではスマホ等のアウトメディアの適切な使い方を示すと共に、人体に及ぼす悪影響などについても生徒に伝える活動を積極的に行って欲しい。	適切なインターネットやスマホ利用について、学校全体での情報共有を心がける。視力低下や近視眼だけでなく、様々な身体への影響についても継続的に様々な手段で生徒を中心に発信していく。さらに、生徒保健委員会や生徒会などと協力し、家庭との連携も見据え、学校全体で活動をしていきたい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な進路指導を行っていますか。	⑬ 普通科では、自らの生き方と望ましい職業観を育成するとともに、主体的に進路選択ができる力を育成する。 専門学科では、農業、建設土木、介護福祉分野への理解を深め、各科で学んだ知識や技能を生かした就職先や進学先を選択できるよう指導する。また、関係業界と連携したキャリア教育を充実させる。	A	B	B	本年度はコロナ下、インターンシップ、オープンキャンパス、実習、地域交流等に制限があり実施できなかったり実施できても規模を縮小せざるを得なかった。校内での進路行事も学年単位で実施したり、人数制限や消毒をするなどして対応してきた。3年生に関しては進路予定や入試方法の変更など学年と情報を共有して対応してきた。	コロナ下、リモートでのオープンキャンパスやホームページ閲覧等に頼らざるを得ない状況の中、親身な指導で生徒の進路実現を図っており評価できる。進路ガイダンスの満足度も高くコロナ下でも効果的な進路指導が行われていることも評価できる。	コロナ禍の状況にもよるが、次年度も就業体験を実施する計画を各科で立てている。就業体験により就職や進学について深く考える機会を得ているため実施できるか否かの影響は大きいと思われる。実施できない場合には代替措置を授業等で補っていくことになるが、その際今年の経験が生かされるはずである。
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑭ 美観プランにおいて、ポートフォリオ、フォーサイト手帳を活用して進路実現に取り組む。大学入試改革に対応するため、1、2年生の進学希望者にクラッシーを利用しe-ポートフォリオ作成を行わせる。	B	B	B	手帳の活用は年度当初休業だったため特に生徒への意識付けが難しかった。ポートフォリオ作成に関しては部活動を始め校外活動等が思うようにできず苦労していると思われる。	全職員がクラッシーの研修を受け、特に休業中の生徒指導に役立ったと評価する。今後もその利点を活用してほしい。	PCひとり一台となる次年度は、より効果的な活用方法を取り入れ、進路指導にも生かされる機会が増えると期待する。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮ PTA行事等を開催する際には、感染症防止対策を整え、生徒・保護者及び職員の安全確保に留意したい。	D	D	D	感染症拡大下にあり、PTA行事として11月に学級委員・本部役員を対象とした「環境美化活動」を開催することが精一杯であった。保護者会等については、2学年の修学旅行関係のみの開催であった。	常に保護者（地域）に対して情報発信をし、共に関心を持ち関わり合うことが求められる中、感染予防対策を講じつつ行事内容の精選と工夫により、適正規模での開催も模索して欲しい。	感染状況によっては、対外的な行事については今年度同様となるかも知れないが、校内行事に関しては感染対策に留意しつつ、出来る事を会員の皆さんと共に実施していきたい。
		⑯ 「学校の様子がよく分かる」と評価する保護者が80%となるよう、日頃の学校行事、各科の情報発信を行う。	B	B	B	コロナ禍において例年通り各行事が行われなく、例年各行事を中心にHP等の更新を行ってきたが、今年度は更新も少なかった。今後、頻繁なHPの更新と全職員がHP更新に携われるようなシステムが必要である。HPの更新の他には新聞への掲載やテレビ局などの取材を受けているが、学科ごとに依頼することが多く、学校として一括した対応も必要と感じる。	情報発信ツール（HP、地元新聞、ぐんまTV、FMぐんま等）により、学校での様子がわかる保護者が86%いることは高く評価できます。引き続きHPのみならず各種メディアを活用し情報発信をしていたたき、保護者と学校、地域と学校の結びつきを高めていただきたい。また、FMぐんま等のメディアの活用は一般の人たちにもアピールできるので、是非積極的に活用していただきたい。	基本的な情報発信の考え方としては、学校HPの更新を頻繁に行ってきたい。各種メディアの活用に関しては、活躍している事象なくしては掲載や出演も考えられないので、活躍している事象に関して積極的な応援や各種メディアに対し要請による支援を行い、保護者のみならず、地域や一般の方々へもアピールしたい。